

広大通信



【連絡先】
広島大学広報グループ
〒739-8511 広島市鏡山1-3-2
☎082-424-6781 ☒082-424-6040
E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

広島大学

本学の機能強化に向け、ゼロベースでの検討を開始

― 文部科学大臣が国立大に組織及び業務全般の見直しを通知 ―

平成27年6月8日に出された、国立大学に既存の学部などを見直す文部科学大臣通知「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直しについて」を受け、本学では専門分野の教員等を中心として、6月に「生命・生物系分野強化検討WG」を、7月に「人文社会科学系・学際系分野強化検討WG」を新たに学長の下に設置した。

文科省の通知では「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」求めている。18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割などを踏まえた組織見直し計画を策定し、平成28年度からの第3期中期目標期間中に対応する必要がある。

文科省の通知では「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」求めている。18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割などを踏まえた組織見直し計画を策定し、平成28年度からの第3期中期目標期間中に対応する必要がある。

文科省の通知では「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」求めている。18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割などを踏まえた組織見直し計画を策定し、平成28年度からの第3期中期目標期間中に対応する必要がある。

文科省の通知では「特に教員養成系学部・大学院、人文社会科学系学部・大学院については、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」求めている。18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割などを踏まえた組織見直し計画を策定し、平成28年度からの第3期中期目標期間中に対応する必要がある。

広大の魅力を海外に発信！ 広大紹介DVDを開始

本学の世界トップレベルの研究・教育をアピールするため、英文の「広大紹介メール」を海外に向けて発信する。

これまで、本学が持つ教育力、研究力は、学外から見えてくれない状況にあった。本学の魅力を正しく評価してもらう一環として、地域・全国・

これまで本学では平成26年7月、学長の下に生命科学系分野と人文社会科学系分野の2つの検討会を設置し、機能強化について検討してきた。

生命科学系強化のための検討会では「研究科を再編し、新たに生命科学系の研究科を設置することで、生物系分野の教育研究機能の強化並びに全学の教育研究機能の向上につながるか」について検討し、同年8月「生命科学系の研究科の設置は本学の機能強化に結びつく」と結論を出している。

一方、人文社会科学系強化のための検討会では「研究科の大括り化によって、人文社会科学系分野の強化につながるか」について検討し、本年3月「人文社会科学系系の抱えている問題は明らかになったが、同時に研究科の再編・改組が解決の特効薬

世界に向けて情報発信を重層的に行い、広島大学のプレゼンスを高める目的。

メールの内容は、広島大学の概要、最近の出来事、大学の取り組み、各部署のトピックス(国際的に評価されているもの)など。各教員から海外のつながりのある研究者に、自身の最近の業績や取り組みも加えて発信していく。初回は8月に配信し、今後は年3〜4回配信する予定。

にはならぬ」と結論を出している。

今回新しく設置したWGでは、前検討会での検討内容なども参考に、原則ゼロベースで本学の機能強化につながるような教育研究組織の検討を進めていく。

2020年東京パラリンピック

医・科学・情報サポート事業の協力機関に選定されました

日本障がい者スポーツ協会(日本パラリンピック委員会)より要請を受け、回委員会が実施する「医・科学・情報サポート事業」の協力機関に本学が選定された。

期間は平成28年度末までの2年間で、今後パラアスリートの「フィットネスチェック(体力調査)」を実施する。

「フィットネスチェック(体力調査)」は、日本パラリンピック委員会の強化事業の一環。重点強化として指定する競技の国際競技大会出場選手、および強化対象選手の基本的な体力の特性を把握するとともに、当該競技団体や選手自身に測定結果を継続的にフィードバックするなど、強化指導現場におけるデータ活用を目的としている。

本学のアスリート支援活動は、中国・四国地方のスポーツ医学拠点として、平成25年9月に越智晃夫教授(現学長)をセンター長として本学病院内にスポーツ医学センターを設置した。現在は、広島県体育協会、広島市スポーツ協会と連携、県内の有望アスリートのメディカルチェック、フィットネスチェック活

動を実施している。また、障害者スポーツに関連しても、国際大会へのトレーナー派遣や障害者スポーツの普及活動を実施している。

今後は、学内のスポーツに関連する分野の連携を深め、マルチアスリートサポートが可能な体制作りを進め、スポーツ医学分野の発展に貢献していく。

朝日新聞社「大学ランキング2016版」 論文引用度指数 宇宙科学分野でトップ

朝日新聞社「大学ランキング2016版」において、本学はトムソン・ロイターの論文引用度指数(2009〜2013)の宇宙科学分野で国内第1位となった。回ランキングでは、2012版15位、2013版18位、2014版13位、2015年1位と着実にランクアップを果たし、今年度は昨年に続いて第1位をキープした。

また、学術雑誌「サイエンス」への掲載論文数(2009〜2014)の執筆者別ランキングでは、本学の教員が1位を独占している。

本学の被爆70年企画の一つである、チェコ共和国への原爆ドーム破片石材「デンティル」の寄贈式を8月6日、医学資料館で実施した。

今年被爆70年を迎えることを機に、原爆ドーム(旧広島原爆産陳列

館)を設計した建築家ヤン・レルフ氏の出身地であるチェコ共和国に寄贈することになった。

贈し、原爆ドームの破片石材「デンティル」の寄贈式を8月6日、医学資料館で実施した。

今年被爆70年を迎えることを機に、原爆ドーム(旧広島原爆産陳列



知的人材育成センター(仮称)の正式名称が「東千田未来創生センター」に決定した。

同センターの、平成28年度からの供用開始に向け、これまで「知的人材育成センター(仮称)運営等検討WG」および「東千田学生・教育・生活運用WG」を設置し、センター整備に伴う運営などに係る諸課題ならびに教育教育カリキュラムの確定や学生生活に関する全般的事項について検討を行っている。

知的人材育成センター(仮称)の正式名称が「東千田未来創生センター」に決定した。

同センターの、平成28年度からの供用開始に向け、これまで「知的人材育成センター(仮称)運営等検討WG」および「東千田学生・教育・生活運用WG」を設置し、センター整備に伴う運営などに係る諸課題ならびに教育教育カリキュラムの確定や学生生活に関する全般的事項について検討を行っている。

知的人材育成センター(仮称)の正式名称が「東千田未来創生センター」に決定した。

同センターの、平成28年度からの供用開始に向け、これまで「知的人材育成センター(仮称)運営等検討WG」および「東千田学生・教育・生活運用WG」を設置し、センター整備に伴う運営などに係る諸課題ならびに教育教育カリキュラムの確定や学生生活に関する全般的事項について検討を行っている。

知的人材育成センター(仮称)の正式名称が「東千田未来創生センター」に決定した。

被爆70年特設サイトを開設

公式ウェブサイトを平和を発信

被爆70年を迎えて、本学ではさまざまな企画を通じ平和を考える場を提供している。その取り組みをさらに国内外へ広く情報発信するため、7月24日に被爆70年特設サイト(日本語版・英語版)を開設した。

サイトでは、世界最初の被爆地である広島に開学した広島大学からのメッセージを、東日本震災と福島第一原発事故の復興支援などの様子とともに、学長が語っているほか、被爆70年に際して本学が行った取り組みを集約して掲載している。

広島大学と首都師範大学の共同大学院プログラムの銘板除幕式を実施

7月10日、本学と共同大学院プログラムの設置を進めている中国・北京の首都師範大学で、越智光夫学長の揮毫によるプログラム名を記した銘板の除幕式が行われた。



除幕式には、本学から越智光夫学長、佐藤利行理事・副学長、佐藤暢治北京研究センター長らが出席し、首都師範大学からも宮輝力学長をはじめとする関係者が出席した。また、来賓として、日本大使館

行事カレンダー 8月～10月	
8月11日(火)	第2ターム終了
8月12日(水)	夏季休業
～9月30日(水)	
8月18日(火)	オープンキャンパス
・19日(水)	
8月26日(水)	職員健康診断(三原)
9月2日(水)	経営協議会
9月15日(火)	教育研究評議会
9月25日(金)	秋季学位授与式
10月1日(木)	秋季入学式
	第3ターム開始
10月20日(火)	教育研究評議会
10月25日(日)	フェニックスリレーマラソン

より山本恭司大使を迎えたほか、本学中国校友会のメンバーも多数参加した。

この共同大学院プログラムでは、両大学が、首都師範大学の学生を対象に、学部生に対する日本語・日本文化教育の協力や修士課程の学生に対するダブルディグリープログラムを行うことを計画している。

本プログラムを通じて、日本語中国語および英語の素養をあわせ持ち、日中両国の文化・習慣にも精通した優れた人材を輩出するというのが期待されている。

前期授業評価アンケートにご協力ください

授業の改善に学生からの声を反映させるため、7月16日から、平成27年度(前期)授業評価アンケートを実施している。

教育・国際室では、教員から学生への回答の呼びかけをお願いしている。また学生は、回答したアンケートに対する教員からのコメントに期待しているため、教員のコメント入力への協力を強く望む。

【学生による回答期間】7月16日(木)～8月14日(金)

【教員によるコメント入力期間】8月17日(月)～9月24日(木)

【結果の公開】9月25日(金)

第9回 広島大学フェニックスリレーマラソン 10/25

広島大学体育会主催による「第3回広島大学フェニックスリレーマラソン」を10月25日に開催する。9つの参加団を設け、2人～10人で構成するチームでたすきをつなぎ、東広島キャンパス内約2.2kmの特設コースを4時間でどれだけ周回できるかを競う。

※小雨決行

【場所】広島大学東広島キャンパス /メイン会場・北第3駐車場(法学部・経済学部北側)

【募集定員】1500チーム(1チーム2～10人、1100人程度)

◆詳細は大会ホームページに掲載 http://home.hiroshima-u.ac.jp/husa1rm/husa_relaymarathon/

題したシンポジウムを8月22日に開催する。人の「平和」と「安全」を脅かす諸現象に対し、法はどのように予防対処しているか、また法に携わる人々は、「人の平和と安全な生活の保障」の実現に対していかに貢献でき、法科大学院はそれによつて関わることができているのか、改めて考察し討議する。

【日時および場所】8月22日(土)13時30分～東千田キャンパス302教室

平成27年度情報セキュリティ研修

教職員を対象とした情報セキュリティ研修を8月26日、9月17日に開催する。

本研修は、情報セキュリティに関する意識の向上(Aコース)および知識の習得(Bコース)を目的とし、平成24年度から実施している。

今年度は、Aコース「情報セキュリティ対策について」およびBコース「日常生活に潜むワナ。サイバー犯罪の手口から必要対策を知る」を手口を知ることが最も有効な対策をテーマに、東広島キャンパスおよび霞キャンパスで、2コース各4回実施する。

◆詳細は「いろは」【学内】イベントに掲載。

第10回 広島大学フェニックスリレーマラソン 10/25

広島大学体育会主催による「第3回広島大学フェニックスリレーマラソン」を10月25日に開催する。9つの参加団を設け、2人～10人で構成するチームでたすきをつなぎ、東広島キャンパス内約2.2kmの特設コースを4時間でどれだけ周回できるかを競う。

※小雨決行

【場所】広島大学東広島キャンパス /メイン会場・北第3駐車場(法学部・経済学部北側)

【募集定員】1500チーム(1チーム2～10人、1100人程度)

◆詳細は大会ホームページに掲載 http://home.hiroshima-u.ac.jp/husa1rm/husa_relaymarathon/

【日時および場所】8月22日(土)13時30分～東千田キャンパス302教室

【日時および場所】8月22日(土)13時30分～東千田キャンパス302教室

広島大学外国人留学生を援助する会決算報告

広島大学外国人留学生を援助する会は、平成26年度、学内外の会員から援助をいただき、私費外国人留学生への奨学金支給(20人の事業を行うことができました。これもひとえに会員の皆さまのご支援のためと深く感謝いたします。

収入の部(円)	
前年度より繰越	2,600,725
会費など	3,202,064
計	5,802,789
支出の部(円)	
奨学金(月額3万円6カ月間)	3,600,000
計	3,600,000
差引残額(円)	
収入額	5,802,789
支出額	3,600,000
次年度繰越金	2,202,789
	(平成26年度)

広島大学基金寄附者

ご厚意に深く感謝申し上げます

医療法人西谷会 兼山整形 外科医院 院長 兼山 敦 様

河野修興 様

佐藤利行 様

重信隆史 様

(五十音順)

7月3日、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第1回成果報告会を開催

7月3日、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第1回成果報告会を開催した。ローン株式会社チーフアドバイザー技術顧問の高須秀規氏の講演の後、本事業インタビュを体験した若手研究者の報告、本事業で採用されたアナウンスラック教員の報告がなされた。参加者は学内外計81人であった。

7月9日、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第3回若手研究者シニア発表会を開催

7月9日、「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第3回若手研究者シニア発表会を開催した。企業等の方々を対象としたマッチング型のシニア発表会で、若手研究者20人が発表を行った。参加者は113人参加企業数は20社にのぼった。

◆締結した協定

【学内間協定】ニューサウスウェールズ大学(オーストラリア) / 6月25日 【部局間協定】理学研究科 国立中正大学理学院(台湾) / 6月2日

◆博士号トリサクティイ大学歯学部(インドネシア) / 6月10日

◆生物科学研究所ハサスディン大学海洋科学水産学部(インドネシア) / 7月1日

◆教員の退職・転出状況

◆学術・社会連携推進室 / 井出太郎 / 教授

◆大学院医歯薬保健学研究科 / 出家正隆 / 教授 / 愛知医科大学

◆大学院医歯薬保健学研究科 / 杉本洋輔 / 助教 / 県立広島病院(7月31日付)